

皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

- ◇例会日
- ◇例会場
- ◇事務所



第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp

UNITE
FOR
GOOD

よいことのために手を取りあおう

第1708回例会 令和7年11月13日(木)

【会長の時間】

畝 徳治

【幹事報告】

山田 利明

皆さん、こんにちは。今日は米山記念奨学生の卓話という事で来ていただきました。

会長の時間という事で、失敗学という本のお話させていただきます。技術を進歩させた「三大失敗」という事です。今日は金属疲労についてです。

コメット機の墜落です。第二次大戦が終わったころ、アメリカとイギリスが競ってジェット機を開発し、イギリスがこの競争に勝って商業運航を始めたのがコメット機です。ところが、これが一九五四年ごろから次々と墜落するようになりました。理由は当時、わかりませんでした。そこで、当時のチャーチル首相が、「イングランド銀行が空になってもいい」という英断を下し、徹底的に原因を究明したのです。そこでわかったのが、金属に何回も繰り返して力を加えていると、くたびれて割れてしまうという現象でした。この、金属の疲労破壊という現象も、世界中に発信されました。このため、何千時間かフライトを続けた航空機にはすべて目視で検査するといった対策がとられるようになり、航空機本体の疲労破壊による墜落事故は根絶されました。

この「三大失敗」は、いずれも当時の技術レベルでは明らかになっていなかった「未知」の原因によって起きたものでした。また、これらはいずれも構造に関わる失敗で、さまざまな分野に大きな影響を及ぼすという点でも共通しています。だからこそ、三つの失敗によってもたらされた教訓はいずれも、建築、土木、機械などに従事する人は必ず知っていなければいけないほど重要な知識となっているのです。

タコマ橋の崩落は一九四〇年、戦時標準船の沈没は一九四二年から四五年、コメット機の墜落は一九五四年ごろと、いずれも二〇世紀の真ん中あたりに起きています。ちょうど、機械などの構造体がどんどん大きくなっていく時期のことでした。そんな転換期にあって、当時の技術者が一生懸命に開発に取り組んだことで、結果として「未知」の失敗に遭遇し、そこから学ぶことで技術が重要な進歩を遂げていったのです。その時代背景も含めて考えると、失敗が人間を進歩させてきたということが、実感できるのではないのでしょうか。



1. 地区事務所より
 - ①月信11月号
 - ②文庫通信案内
 - ③ロータリーリーダーシップ研究会のパート3の案内
- 11月23日の地区大会ですが、参加する会員の方は10時10時30分に私の家を出て乗り合わせて行く予定です。

米山記念奨学生卓話

米山記念奨学委員会

学友委員会委員 武正 進介様



今年始めて委員会に所属しました。奨学生が16名おり、8月に日本文化体験一日ツアー、9月には米山梅吉記念館を訪問し、10月、11月は奨学生が卓話者として各クラブを訪問します。今日は立教大学のハナさんに来ていただきました。

米山記念奨学会の事業の狙いは、日本でいい事をたくさん学んでもらい、母国に帰って、日本との架け橋になってもらうという事があります。ハナさんは日本を気に入っていただいています。卓話をお願いします。

米山記念奨学生

康 乃 馨さん



中国出身のハナと申します。私は2022年5月に来日し、現在成増に住んでいます。趣味として映画鑑賞や旅行をする事です。

出身地は中国の東北地方、寒い所にあります。遼寧省です。中国の行政区は省級、地級、県級、郷級という4層のから成り立っています。遼寧省、四川省など。遼陽市、瀋陽市など。この4つの級以外に直轄市、自治区5つも存在します。直轄市は北京市、上海市、天津市、重慶市で特別な位置づけになります。自治区がなぜ存在するかというと、中国は漢民族ですが、それ以外に少数民族のウイグル、チベット族など少数民族を管理

するために自治区と呼んでいます。

遼寧省の概況としては、瀋陽市と大連市には自分の高校があり、東京都までの飛行時間は約3時間かかります。瀋陽市、大連市は東北地方の南にあります。南側は海と接しており、隣は朝鮮です。面積は、40.8万平方メートル。人口は4千万くらい。民族も80%が漢民族で、それ以外に朝鮮族と満州族、回族も存在しています。給料のレベルは3年くらい働いている人たちは月に20万円くらいです。一方でアルバイトの時給は東京都比べると低いです。時給200円くらいです。

遼寧省の観光名所は、一番有名なのは、瀋陽市にある故宮です。ここは北京の故宮と並んで、後金時代のもので、様式は現代風ではなく、満州、モンゴル、漢の様式になります。大きさは北京の故宮の12分の1しかありません。ここは2004年にユネスコの世界遺産の文化遺産に登録されました。

大連市ですが、遼寧省において、別の都市と比べると日本とつながりを持っている都市になっていると思っています。たとえば日露戦争が1937年に勃発しましたが、1940年には大連の人口は60万人の中で日本人居住者は約20万人で、大連の政治家や公務員の大半が日本人でした。

食べ物ですが、自分が好きな名物料理です。ティエグオドゥンは鉄鍋料理です。薪をくべた大きな鍋に骨付きの鶏や豚肉、羊肉、インゲン、ジャガイモ、トウモロコシなども一緒に煮込んで食べる家庭料理です。グオバオロウは、豚肉を甘酢の餡をかけて食べます。豚のひれ肉をスライスして、揚げて甘酢をかけて食べます。チュンピンは、小麦粉をクレープのように豚肉の燻製や塩気の強い味噌で味付けて、痛炒めたひき肉、キノコ、キュウリなどを包んで食べます。包む皮の厚みがポイントです。薄い皮は具材の味が引き立ちそうです。

生活の中で自炊は言うまでもなく、外食もすると思います。中国の東北地方では朝食ですが、ドゥーフーと揚げパンです。柔らかくなめらかな豆腐の一種で絹ごし豆腐に近いと思います。台湾ではスイーツとして食べるのが普通ですが、東北地域では醤油、香辛料でおかずとして食べます。私が一番好きな朝食です。日本の納豆は好きで、毎朝生卵と一緒に食べています。

遼陽市についてですが、16歳までの青少年時期を過ごしました。高校は瀋陽市で大学は大連で勉強していました。場所は瀋陽市と大連市の間にあります。高速列車で20分瀋陽市までかかり、大連までは1時間半かかります。小さな都市として、地震などもなく、平和な都市だと思います。観光名所は白塔です。金の時代の世宗が建設した13層の八角の塔になります。

大連外国語大学の日本語を専攻していました。大連外国語大学は1964年に設立され東北地方の唯一の公立大学になります。日本語の専攻が強くて、これまで多くの外務大臣を輩出しています。中国の他の大学はわかりませんが、大連外国語大学の学生はすべて寮に住んでいます。部屋は4人部屋です。4年間一緒なので仲良くしなくてははいけないと思います。クラスメート

の一人は大連の日本企業で働いており、もう一人は上海で外資系会社で働いています。大学ではたくさんの履修科目があり、ストレスもあります。ストレスを解消するために北京市、西安、成都、上海には何回も行きました。

大学卒業後、7年くらい働きました。最初はアメリカ系の会社に入社しました。主にパソコンあるいは企業のサーバーストレージなどを収集しています。私が所属していたチームはアジアの企業カスタマーに向けて営業を担当する人のオーダーのデーターの管理、分析をしていました。2年間働きましたが、穏やかに過ごす事が出来ました。私はまだ20代でしたので、人生に希望があるかどうか悩んで、辞めて、上海での生活をスタートしました。上海では投資業務をやっている会社で秘書として働いていました。社長のスケジュール管理、部門間のコミュニケーションなど忙しいサラリーマンの生活をしました。忙しさの程度としては、1、2ヶ月続きでの出張や深夜12時過ぎまで残業したこともあります。たくさん成長出来たと思います。最後にはベスト社員賞ももらいました。

忙しい生活の中に欠かせないのは旅行でした。上海での5年間の間にベトナム、ミャンマー、バリ、香港、日本に旅行しました。2018年に初めて日本に旅行しました。その時は東京都内で過ごしました。この旅行を通じて、日本人はマナーが良いし、街の中も清潔でいいと感じました。その半年後のクリスマスにまた訪日旅行をしました。その時には大阪、神戸を中心に満喫しました。

2回目の日本への旅行で、日本に留学しようかという気持ちが生まれました。当時私はもうすぐ30代になる直前なので、留学する事は良いことだとは思いません。中国で経験を積んで、それを辞めて、日本に行くのは冒険のようで、1年間くらい迷いました。切っ掛けとして2019年にコロナの蔓延がありました。武漢のニュースなどがあつたのですが、人の命が失われていたのですが、中国のニュースと海外のニュースにずれがあることに気づきました。中国では外国のウェブサイトは登録出来ません。見た場合はツールを活用して見られます。その時に人生について深く考えて、これからの人生を自分がしたい事をしなくてははいけない気がしました。コロナが切っ掛けにして日本留学を決意しました。

準備を始めたのは2020年です。いろいろな専門、学校などをピックアップできるか考えた時に、旅行が好きなので、結果としては観光学を専攻しようと思いました。そこで日本で一番早く1998年に観光学部を設立した立教大学の観光学研究科を目指しました。また北海道大学も受験しました。なんの研究をしたいか、観光学の専門知識もゼロから身につけなくてははいけなかったのですが、仕事を辞めるタイミングではありませんでした。仕事を続けながら毎日勉強しました。朝早くに会社に行き、就業時間まで英語の勉強をしました。早くに仕事が終わると、図書館や喫茶店で22時まで勉強しました。週末も朝から図書館へ行き、閉館時間まで勉強していました。このように半年くらい努

力を続けて、立教大学と北海道大学に合格しました。

なぜ立教大学を選んだのは、東京都にあるので、仕事を探すには北海道より仕事の機会が多いと思います。また立教大学は優れた教授たちがいらっしやるので、自分の研究能力も成長出来ると思います。レジャーも必要ですので、東京ではたくさんの文化施設、博物館、美術館、ライブハウスなどあるので、遊ぶ事も問題ないと思います。

入学して、観光学の中で王道的な分野の中にはマーケティング、経営学、地理学、心理学などの他の分野と融合しながら研究しなくてはいけないと知りました。修士1年生はすべては中国でオンライン授業をしました。コロナの影響で日本で在留カードを発行せず、私も力がなく、2年生の5月にやっと来日しました。

そして日本での留学生活が始まりました。生活を始めると3つの必要がありました。生活しなくてはいけないのでお金の事。自分の学業に集中しなくてはいけない。自分のレジャーの時間。これを軸として毎日過ごしました。アルバイトはまずやったのは、学校で授業でやっている教員のサポート。資料を配布したり、成績の記録などをしていました。その後、ドン・キホーテ。日本でアルバイトを探すのは日本語の能力など容易ではありません。効率的な仕事先としてドン・キホーテと考えたので入社しました。3か月くらい働いたのですが、もっと高いレベルのアルバイトをしたいと思い、星野リゾートの東京にあるホテルでアルバイトしました。このアルバイトで自分の研究にとってもたくさんの資産をもらいました。ただ長時間立っていると体も疲れて、今は進学塾で講師として働いています。業務は観光学選考の大学院に進学したい場合は、どういう準備をするのか。どういう学校を選んだか。どういう教授と連絡するか。研究内容をどう作成するか。当時の自分の経験を活かしながら、彼らに教える仕事です。

仕事は疲れるので、観光も必要です。今まで日本でいろいろな所に行きました。九州の福岡、別府、金沢にも行きました。これはゼミの合宿、学会発表等で行きました。自分として行きたいのは、日本の温泉文化は有名です。体にも良く、自然の風景を見ながら温泉に入るような文化を体験したいので、川治とか、箱根、鬼怒川とか行きました。さらにホテル、芸術に関心があるため、まず泊まりたいホテルがあったので、伊豆、鎌倉、沖縄に行きました。

瀬戸内海には、世界的に有名な芸術祭り、たくさんの有名なアーティストの作品が直島、犬島に展示されています。博物館、美術館自体が観光資源になります。3年ぶりに開催されるため、毎回たくさんの観光客の関心をひきつけます。レジャー生活としては、運動が好きなので、ジムで筋トレとか有酸素運動をしています。もう一つ好きなのは、日本の映画が好きです。世界中で唯一無二の繊細さが出ていると思います。SNS時代だと思いますので、中国人の若者が使っているプラットフォームにアカウントを運営して観光学に関連する知識や日本での留学生

活などについて、中国人の若者に発信しています。

研究生活は、大学生の勉強とは違うと思います。大学では先生が主役で子供に教えるのが主流ですが、博士になると、自分で勉強して、研究することになります。学生の主な仕事としては学会発表、査読付き論文執筆、卒業するための博論の執筆などをしてしています。今までに日本地理学会、日本観光学会で発表しました。卒業の条件としては、査読付き論文一本、学会発表12点で、私は卒業条件も満たしました。残すのは博論だけです。

研究についてですが、博論のテーマは「ネット、口コミから見る東京都区部における訪日観光者の飲食選考」です。口コミは食べログ、グーグルマップとかに人が投稿したものです。どれくらいの件数、点数などがネットの口コミです。なぜこのような研究が必要かという、人々はどのような料理を選択するのか、どのような周囲の飲食店を選択するのかなどの研究分野は軽視されました。一方で最初は軽視されましたが、最近は飲食選考に関心が高まっています。口コミの発展によって、ビッグデータがあれば、データによって、飲食選考を深く把握することができます。背景としては飲食店の国境です。飲食店経営者はグローバリゼーションの時代においては異文化、言語を話せる国際観光者に対応しなくてはならないので、このような研究は日本の外食産業にも役立ちます。ネット口コミも最近多様な観光者飲食選考研究の新たなデータソースとして重要視されています。

日本はインバウンドを重視しています。外国人80%以上食べることに興味や関心を持っています。訪日前の期待として、滞在中の満足体験として、次回の訪日時に期待するのは日本食を食べることです。知る限り、日本、欧米、中国の研究においては、彼らはどのような料理種類を好むのか、どのような飲食店を選ぶのか。料理種類と飲食店の選考要因に関する研究は存在していません。

私の3年間の留学の経験を通じて人生は生まれた運命に左右されるだけではなく、自分の意志で努力すれば、変わるかもしれません。



出席率 75.0%